

**[成果情報名]** イチゴ「ゆめのか」におけるハダニ類に対する定植前の高濃度炭酸ガス処理の影響

**[要約]** ハダニ類に対する防除効果が高い定植前の高濃度炭酸ガス処理は、イチゴ「ゆめのか」の生育に影響を与えない。また、暗黒低温処理後に高濃度炭酸ガス処理を行っても初期生育に影響は認められない。

**[キーワード]** イチゴ、ゆめのか、ハダニ類、高濃度炭酸ガス、暗黒低温処理

**[担当]** 長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

**[連絡先]** 電話 0957-26-3330

**[区分]** 野菜

**[分類]** 指導

**[作成年度]** 2018 年度

---

**[背景・ねらい]**

本県の主要品種である「ゆめのか」は、ハダニ類が多発しやすい品種である。化学農薬による薬剤散布等により防除対策が行われているが、薬剤感受性の低下による効果不足、加えて茎葉が繁茂しやすく本圃での防除の際に薬剤が葉裏にかかりにくく、防除できないため被害が多発している。本圃での多発生を抑えるためには、苗による本圃への持ち込みを防ぐことが重要である。対策として定植前の苗を高濃度炭酸ガス処理する防除方法が開発され高い防除効果を示しているが、下葉が褐変する薬害が確認されている。そこで、高濃度炭酸ガス処理の生育への影響を検討する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 高濃度炭酸ガス処理を行った苗には、下葉が褐変する薬害（写真1）が生じるが、収穫開始時期、収穫量に差は認められない（図1）。
2. 暗黒低温処理後に高濃度炭酸ガス処理を行っても暗黒低温処理のみの苗、高濃度炭酸ガス処理のみの苗、無処理の苗と比較して初期生育への負の影響は認められない（表1）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 本試験は、高濃度炭酸ガス処理を9月下旬～10月上旬に実施した条件での試験である。
2. 高濃度炭酸ガス処理後に暗黒低温処理を行った場合は、処理による薬害が助長される場合がある。

[具体的データ]



写真1 (処理6日後)

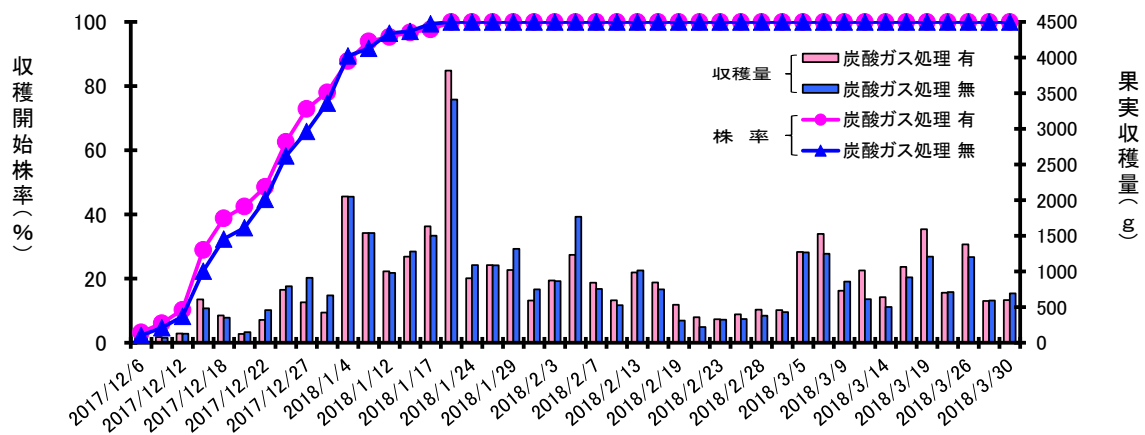


図1 収穫開始時期と収穫量 (2017年度)

品種：ゆめのか 作型：普通ポット (高設栽培)  
 炭酸ガス処理：2017年9月25～26日 定植：9月27日

表1 高濃度炭酸ガス処理した苗の初期生育 (2018年度)

No.	暗黒低温 処理	炭酸ガス 処理	定植後に展開した葉数 (枚)				出蕾日	開花日
			10/9	10/16	10/23	10/29		
1	○	○	3.2	4.1	4.8	5.3	10/27	11/6
2	○	—	3.1	4.3	4.9	5.6	10/27	11/5
3	—	○	2.5	3.3	4.0	4.4	10/28	11/9
4	—	—	2.3	3.3	4.3	4.6	10/29	11/10

品種：ゆめのか 暗黒低温処理：2018年9月11～24日 炭酸ガス処理：9月24～25日  
 定植：9月25日 調査株数：No.1, 3, 4 30株、No.2 6株

[その他]

研究課題名：生果実 (いちご) の東南アジア・北米等への輸出を促進するための輸出  
 相手国の残留農薬基準値に対応した IPM 体系の開発ならびに現地実証  
 予算区分：国庫 (地域戦略プロ)  
 研究期間：2016-2018 年度  
 研究担当者：難波信行、永石久美子、古場直美、寺本健、吉村友加里、植松綾子